

令和6年9月24日

データサイエンス・オンライン講座 「社会人のためのデータサイエンス演習」の開講

総務省は、統計リテラシー向上の取組として、“データサイエンス”力の高い人材育成のため、データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」を本日開講します。

本講座は、社会人・大学生を対象とした、実践的なデータ分析（統計分析）の手法を学習することができる講座です。

- データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」について、本日開講します。
- 本講座は、平成28年4月に開講し、これまで延べ約8万7千人に受講していただきました。
ビジネス上での分析事例を中心に、実践的なデータ分析（統計分析）の手法を、演習を交えて学習します。
- 講座の開講期間は、令和6年9月24日（火）～12月3日（火）です。
本講座紹介用ウェブサイト（<https://gacco.org/stat-japan2/>）において、どなたでも受講登録が可能（登録料及び受講料無料）ですので、是非御活用ください。
※ 本講座は、令和5年10月に実施した講座を再び開講するものです。
※ 受講登録は、令和6年11月25日（月）までです。

（別紙）

データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」の概要

（連絡先）

統計局統計情報利用推進課

担当：辻元課長補佐 吉川統計専門官 石田係長

電話：03-5273-1023（直通）

E-mail: y-senryaku_atmark_soumu.go.jp

（スパムメール防止のため、「@」を「_atmark_」と表示しています。メールを送る際に「_atmark_」を「@」に直して入力してください。）

データサイエンス・オンライン講座 「社会人のためのデータサイエンス演習」の概要

講座の目的：ビジネス上での分析事例を中心に
実践的なデータ分析（統計分析）の手法を習得する

開講期間：令和6年9月24日（火）～12月3日（火）

学習時間：1回10分程度×5～7回程度（1週間）×5週
これとは別に補講・演習を実施（10分程度×11回）

課題：各週の確認テストと最終課題の実施

講師：菅由紀子氏（株式会社Rejou代表取締役）ほか



週	各週のテーマ	内容
1	データサイエンスとは	データ分析に基づく問題解決プロセスを紹介 (データサイエンスの必要性、求められるスキルや知識、課題解決の進め方等)
2	分析の概念と事例	記述統計によるデータの把握と比較の方法を学ぶ (Analysis (分析) とは、1変数の状況の把握、ビジネスにおける比較等)
3	分析の具体的手法	2変数の関係や時系列データの解釈について学ぶ (クロス集計の軸設定と見方、散布図と相関の調べ方、時系列データの見方等)
4	ビジネスにおける予測と分析結果の報告	予測、評価、分析結果の報告と解釈について学ぶ (回帰分析による予測、ビジネスシーンにおける「統計的検定」とその活用例等)
5	ビジネスでデータサイエンスを実現するために	ビジネスや組織における活用ポイントを解説 (データ分析に基づく問題解決ケーススタディ、組織におけるデータサイエンスの実現等)
補講・演習		Excelや統計解析ソフトRを使って実際に演習

▶ 講座の流れ

講義動画



確認テスト及び最終課題



修了証の発行

講師による説明動画でデータサイエンスを分かりやすく解説

各週の確認テストにより理解度を確認、最終課題により習熟度を確認

確認テスト及び最終課題の得点率により修了証を取得

▶ これまでに開講したデータサイエンス・オンライン講座

「社会人のためのデータサイエンス入門」

(講座の特徴)

統計データ分析の基本的な知識を学べる入門編講座

(開講時期)

初回開講：平成27年3月
直近の開講：令和6年6月
開講回数：20回 ※特別開講含む

(学習時間)

1回10分程度×6～9回程度
(1週間)×4週

(実績)

社会人を中心に延べ
約209,000人が受講

「社会人のためのデータサイエンス演習」

(講座の特徴)

「社会人のためのデータサイエンス入門」を踏まえ、より実践的な内容へ

(開講時期)

初回開講：平成28年4月
直近の開講：令和5年10月
開講回数：13回 ※特別開講含む

(学習時間)

1回10分程度×5～7回程度
(1週間)×5週

(実績)

社会人を中心に延べ
約87,000人が受講

「誰でも使える統計オープンデータ」

(講座の特徴)

e-Stat (政府統計の総合窓口) 等を使い、統計オープンデータの活用方法を学ぶ

(開講時期)

初回開講：平成29年6月
直近の開講：令和6年1月
開講回数：12回 ※特別開講含む

(学習時間)

1回10分程度×5～7回程度
(1週間)×4週

(実績)

社会人を中心に延べ
約54,000人が受講